

技術・家庭科 遠隔学習指導 実践報告

1. 学年と題材 家庭分野 3 年「幼児の生活と家族」

2. 教材について

本校技術・家庭科では、休校期間や遠隔授業の学習内容を検討するにあたり、生徒が自らの学習を調整する姿を見とることができることを念頭に置いて年間指導計画を見直し、授業づくりに取り組んだ。

家庭分野では、「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習」は、文部科学省「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～(2020.8.6 Ver.3)」の第3章 具体的な活動場面ごとの感染症予防対策について、各教科における「感染症対策を講じてもなお感染のリスクが高い学習活動」の中でも特にリスクの高い活動として挙げられている。調理実習も被服製作も家庭で取り組むことができる学習活動ではあるが、一人一人が見ていたり、考えていたりしているだけでは気付きにくい視点を他者の意見で調整することができ、相手意識のある探究的な学習活動と捉え、被服製作や調理実習は学校で実施する方針で配当授業時数や実施時期を調整した。

ここでは、遠隔授業期間に家庭分野で取り組んだ3学年の「幼児の生活と家族」の学習内容について取り上げる。1学期に「幼児の生活と家族」の学習内容のうち、3時間の遠隔授業と分散登校期間に1時間の対面授業を実施し、状況を見ながらではあるが幼児との触れ合いを視野に入れた知識・技能の習得につながる学習活動を展開した。

3. 本題材の目標／評価規準（評価の総括に向けた記録の有無）

(1) 本題材の目標

- ・自分の幼い頃を振り返り、周囲の人との関わりに気付く。
- ・幼児の体や心の発達の特徴や生活習慣について理解できる。
- ・幼児にとっての遊びに意義について理解できる。

(2) 本題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幼児の発達と生活の特徴が分かり、子供が育つ環境としての家族の役割について理解している。（記録）		

4. 生徒の学習の実際

(1) 授業展開

表1に示したように、「幼児の生活と家族」の学習内容のうち、3時間の遠隔授業と分散登校期間に1時間の対面授業を実施した。遠隔授業期間は、幼い頃を振り返る活動を取り入れるよう工夫した。

表1 学習内容と教材

	学習内容	教材
1 遠隔 授業	幼い頃を振り返ろう 幼児の体の発達について考えよう	[動画] 幼児の体の発達 [アンケート] 好きだった遊びは？ [アンケート] 活動の確認（本時の振り返り）

2 遠隔 授業	幼児の遊びを知ろう	[動画] 遊びと発達の関係 [ノート] みんなが好きだった遊び [ノート] どんな力が育つかな？ [アンケート] やってみた！ [アンケート] 活動の確認（本時の振り返り）
3 遠隔 授業	幼児の生活習慣の習得について考えよう	[動画] 生活習慣を身につける [アンケート] 活動の確認（本時の振り返り）
4 対面 授業	幼児の心の発達について考えよう	

（２）授業づくりの工夫と生徒の様子

①教材の工夫

図1は、第2回の遠隔授業のMoodle上の提示画面である。授業の際は、普段の授業と同様に教科書・ノート・ワークシートを用意して取り組ませた。表1の教材に示したように、[動画] [アンケート] [ノート]を用意した。

[動画]は、普段の授業ではプロジェクトで提示しているスライドにいつも通り授業をしている内容を録音したものを動画形式で保存したものであり、この[動画]を中心に授業を展開した。生徒が視聴しやすいよう、1本の動画の内容や長さを調整した。動画形式で保存したスライドを作成する際には、生徒に見てもらいたいMoodleや教科書の内容、ワークシートやノートに記入するタイミングや内容についての解説を加え、生徒が授業に取り組みややすくなるよう心がけた。

幼児と中学生の身長や体型の違いを学習する場面の中では、幼児が椅子に座っている時に中学生が立ったままだと幼児からどのように見えるのかを図2に示したアニメーション付きのスライドを用いて考えさせた。教科書の図に、フリー素材の目の画像と2色の矢印をアニメーション機能を使って加えただけのスライドだが、生徒からは「想像していた以上に見上げなくてはならないことが分かった。」「実際に幼児と触れ合う時には幼児の目線に合わせられるよう気をつけようと思う。」等の気付きがあった。自宅で授業を受けながら、幼児になったつもりで考えた様子が伺えた。

図3は、毎回動画の最後に提示した板書の一例である。動画の内容やワークシートを使いながら自分なりに工夫をしてノートを整理することができる生徒もいる一方で、学習の要点を整理することが難しい生徒もいることが予想された。そこで、学校の授業であれば板書するであろう最低限の内容を動画の最後に提示することにした。学習の要点を整理することが難しい生徒にとっては学習を進める重要な役

今回の課題では、幼児の体の発達について考えます。
教科書・ノート・プリント（幼児の生活と家族 幼児の身体発達と遊び②）・筆記用具の準備はできていますか。
プリントがどうしても見つからない人はPDFファイルで内容を確認してください。

動画を見ながらプリントに取り組んだり、ノートを記入したりします。
動画を一時停止したり、巻き戻したりしながら、自分のペースで学習を進めてください。

ノートには、いつも通り日付・題名・本日のゴール（感想）・授業の感想を書きましょう。
題名と本日のゴールは動画の中に出てきますので、いつも通り記入してください。
日付は、自分が課題に取り組んだ日付で構いません。授業の感想もお忘れなく。

★学習の進め方★ 1から順番通りであれば、数日に分けて取り組んでも構いません。
1 遊びと発達の関係【動画】※プリント幼児の生活と家族 幼児の身体発達と遊び②に取り組みます。
2 遊びによって育つ力は？【動画】※プリント幼児の生活と家族 幼児の身体発達と遊び②に取り組みます。
3 やってみた！ ※提出締め切りは6月5日（金）17時です。
4 活動の確認5/29 ※お忘れなく！
★全ての取り組みを完了するとバッジがもらえますよ。今日のバッジはたまご料理です。

- 1 遊びと発達の関係
- 2 遊びによって育つ力は？
- 結学年のみんなが好きだった遊び
- どんな力が育つかな？
- 3 やってみた！
- 4 活動の確認5/29
- プリントが見つからない人へ

図1 第2回の遠隔授業のMoodle画面*1

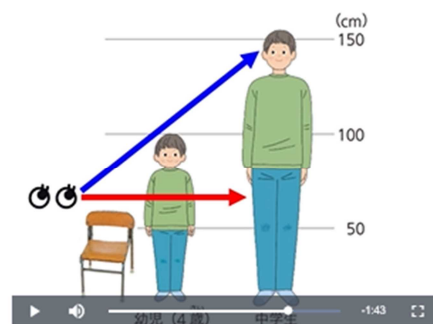


図2 [動画] 幼児の身体発達*1

割となり、自分なりに理解を深めていくことができる生徒は、自分が理解した内容の確認として活用していた様子が伺えた。

学習に関連する Web サイト等の情報を Moodle のノート機能を使ってまとめ、生徒の取り組みの様子を Moodle のアンケート機能で集約した。あらかじめ配布したワークシートが見当たらない生徒のために、PDF 形式で保存したワークシートも提示した。

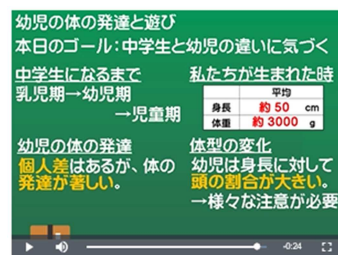


図3 [動画] 板書例の場面*1

②生徒同士の意見の共有

第1回の授業で、幼い頃の振り返りに取り組んだ後、生徒が幼児期に好きだった遊びを Moodle のアンケート機能で回答を求めた。図4に生徒が実際に入力した「[アンケート] 好きだった遊びは？」の画面を示した。

第1回の授業を受け、第2回の授業では遊びによって育つ力を考える探究的な課題解決場面を設定した。対面授業では、小さな頃好きだった遊びをグループごとにその場で共有した後、遊びと発達の関係と関連付けて遊びによって育つ力について考えさせている。各グループで考えたことは、ホワイトボード等を用いて視覚的に整理させ、グループごとに話し合った内容を共有させている。グループ活動を行って幼い頃の経験を共有することで、幼い頃のことを思い出すきっかけになる生徒もいれば、友達の経験から遊びによって育つ力について考える生徒もいる。そこで、遠隔授業においても、遊びによって育つ力について考える学習活動の展開は変えず、動画やノートを活用して生徒同士が経験を共有できる場面を設けることにした。



図4 [アンケート] 好きだった遊びは？の画面*1

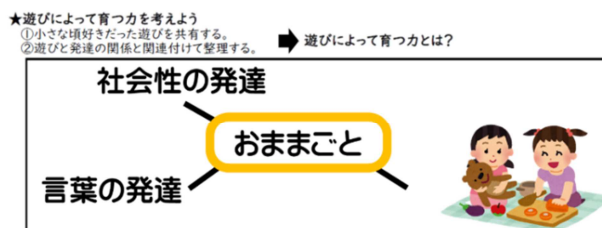


図5 遊びによって育つ力を考えよう*1

第1回の授業の「[アンケート] 好きだった遊びは？」の回答を図6、図7に示したようにテキストマイニング (AI テキストマイニング: User Local) で簡易分析した結果等を活用して「[動画] 遊びと発達の関係」の中で解説した。また、お互いの回答は「[ノート] みんなが好きだった遊び (図8)」でも確認できるようにした。

好きだった遊びは？

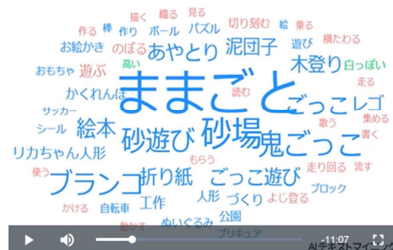


図6 [アンケート] 好きだった遊びは？の回答 (テキストマイニング) ①*1



図7 [アンケート] 好きだった遊びは？の回答 (テキストマイニング) ②*1

結学年のみんなが好きだった遊び

砂場に山を作って水を流す
LaQ(ラキュー)
ボール遊び
将棋
プランコ
公園で野球
ドロケイ
サッカー
あやとり
工作
レゴ
パズル
幼稚園帰りに友達と公園で遊ぶ
大縄跳びなど体を動かす遊び

図8 [ノート] みんなが好きだった遊び*1

学年のみんなが好きだった遊びを見て、自分が思い出した遊びの他にもいろいろな遊びがあったことを振り返り、遊びによって育つ力について考えを深めることができたようである。

5. 生徒の学習効果と展望

「幼児の生活と家族」の授業を遠隔授業の題材として設定した理由の一つに、生徒が家族に自分が幼い時の様子を聞く機会になるのではということがあった。例年、機会があれば家族の方にも聞いてみようと問いかけてみるものの、忙しい毎日の中ではなかなか機会を作ることが難しい生徒も多いようでしたが、今回は家族の方に聞くことができた生徒も多く、自分の様子を振り返りながら考えを深めることができたようである。

生徒同士が意見を共有する場面を設けた遊びによって育つ力を考える取り組みでは、自分だけではなく友だちの様子も含めて幼児期の様子を振り返りながら、遊びによって育つ力について考えを深めることがワークシートの記述やノートの内容等から伺うことができた。また、定期試験の際の解答においても、自分なりの考えを記述することができている生徒が多く見られた。

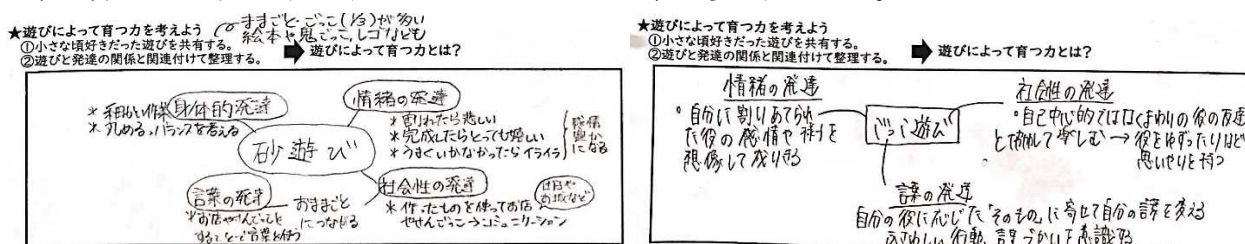


図9 遊びによって育つ力を考えようの記述例

遠隔授業後の生徒アンケートにもあるように、生徒は生徒同士が意見や考えを共有する場面設定については学習効果につながっている認識が低いようである。しかし、生徒が取り組んだ学習内容からは、やはり生徒同士が意見や考えを共有したことによる学習効果を感じ取ることができる。

家庭科の授業では、持続可能な社会を実現に向けてよりよい生活を工夫し創造する資質・能力を育成するため、日々の授業で生活の営みに係る見方・考え方を実践的・体験的な活動による探究的な学習活動に取り組んでいる。よりよい生活を目指して生活の中から課題を見つけ実践を通して解決し、解決したことを生活に生かしていく探究的な課題解決の学習過程を繰り返している。生徒が生活の中から課題を見つけるチャンスが多い在宅による遠隔授業だからこそ、生徒がそのチャンスをつかめるような工夫をしながら、生徒が学習を自分事として捉え、探究的な視点で生活を見つめられる授業を展開していきたい。

引用

*1 お茶の水女子大学附属学校園で使用している Moodle 画面から引用